

[成果情報名] 列状間伐実施による樹幹の偏倚成長

[要約] 列状間伐を行って生じた開放空間に対して残存木の樹幹が偏倚成長する傾向は現在のところ見られない。

[キーワード] 列状間伐、偏倚成長

[担当] 長崎総農林試・林業部・森林環境科

[連絡先] 電話0957-26-3330、電子メールringyou@afes.pref.nagasaki.jp

[区分] 長崎県農林業試験研究・育林

[分類] 指導

[背景・ねらい]

間伐の推進は林業施策の命題となっている。近年間伐を推進し、作業の省力化を図るため高性能林業機械が導入され、列状間伐が実施されてきている。これまでの間伐は、劣勢木を主体とした定性間伐が中心に実施されてきた。又、本県では過去に複層林施業を実施し、台風などの被害により壊滅してしまった林分が多くあり、現在列状間伐については、一部の公有林などを中心として実施されているが、列状間伐が実施林分に与える影響については解明されていない点が多く、事業推進について不安感があり一般の森林所有者に対し十分な普及ができていない。このため、列状間伐実施に伴う樹幹の偏倚成長などの問題点を解明し、機械化による間伐の推進に結びつけていく必要がある。

[成果の内容・特徴]

- 1．列状間伐によって生じた開放空間の方向のみに、偏倚成長する傾向は現在のところ見られない(図1)。

[成果の活用面・留意点]

- 1．森林所有者に対して列状間伐を推進する上での情報の1つとなりうる。
- 2．データ数がまだ少ないため、継続して調査を行う必要がある。

[具体的データ]

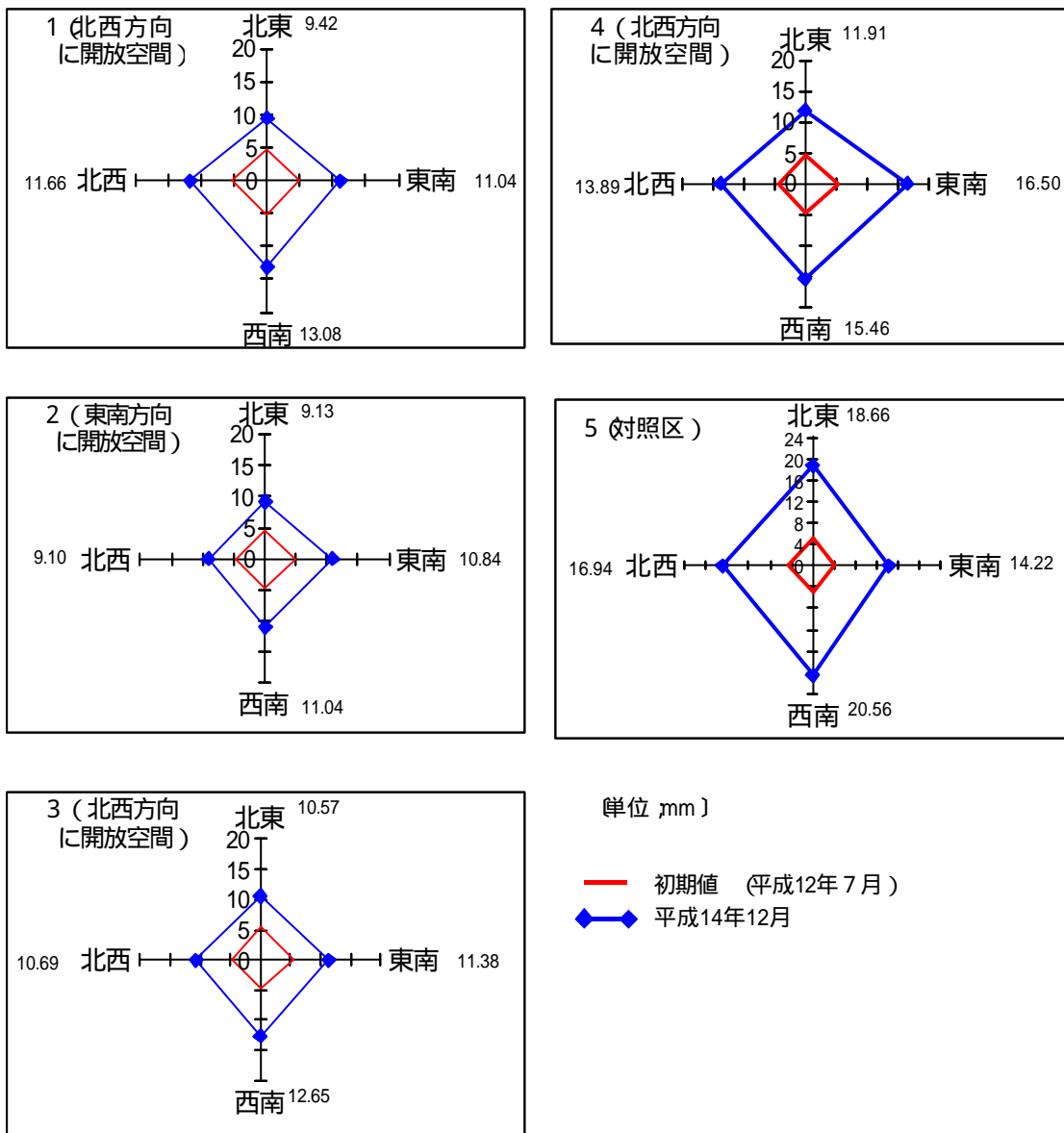


図1 樹幹肥大成長量

[その他]

研究課題名：列状間伐における林分影響調査並びに効果的間伐方法の確立

予算区分：県単

研究期間：2001～2004年度

研究担当者：清水正俊、林末敏、岩崎充明、吉本貴久雄